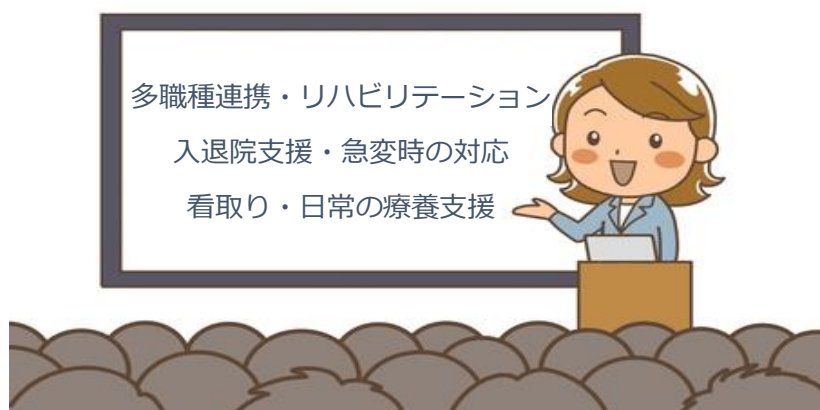


第3回 北見市医療と介護の実践報告会

参加のご案内と抄録集

令和6年度 北見市 在宅医療・介護連携推進事業



日 時	令和6年 10月19日(土) 15:30 ~17:30 (開場 15:15)
方 法	対面及び Zoom ミーティングによる Web 開催と併用
会 場	北見市民会館 小ホール 北見市常盤町2丁目1-10
対 象	北見地域の医療機関、介護保険事業所等で働く医療職・福祉職・介護職・行政職
参加費	無 料
定 員	250 名 (対面 150 名 オンライン 100 名)
参加 申し込み	下記の URL または二次元コードを読み取り必要事項を入力してください。 https://forms.gle/G8VLvQRCAT7aa38N7 締め切り：令和6年10月11日(金)まで
主 催	北見市医療・介護連携支援センター、北見市



【ご案内】会場である北見市民会館 小ホールでは、直前まで市民フォーラムを開催しています(13:30 より)。

あわせてご参加頂ければ幸いです。 申し込み URL : <https://forms.gle/6zS3K5oQyFwuxqNW8>

プログラム

1. 開会あいさつ：北見市保健福祉部 地域包括ケア推進担当主幹
2. 演題報告 6 題 (発表時間 8 分・質疑応答 2 分/1 人)
座 長：武田 学氏 北海道介護支援専門員協会 副会長 (介護老人保健施設さくら)
助言者：オホーツク勤医協北見病院 院長 菊地 憲孝先生
3. 閉会あいさつ：

【演題 1】 カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

介護の重度化予防に資する通所介護領域での関わりの実践

○ **米田 将基** 北見市南部地区地域包括支援センター 理学療法士（前北見市北光デイサービスセンター勤務）

身体機能の維持向上には週3回以上の運動が推奨される一方で、デイサービス利用者は週1～2回の利用が主である。北見市北光デイサービスでは通所日以外の自発的な運動機会を担保するために自助的な運動意識を高める関わりを実践した。37名の機能訓練対象者に対して、理学療法士が対話を通じて将来の目標に必要な能力・現状のレベル・解決ステップについて打ち合わせた。また、通所のたびに実践できていることや考えの変化に対する称賛を繰り返し行った。半年・一年後のバランス能力が有意に改善しており、改善量と利用回数は無相関であった。対話によって自助意識を高める関わりは健康関連行動を後押しすることで介護の重度化予防につながることを示唆される。

【演題 2】 カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

利用者の安全を守るために私たちができること

○ **上村 由衣**¹、**松田 華奈**² 1.介護老人保健施設 いきいき 自立支援課 介護福祉士 2. 介護老人保健施設 いきいき 自立支援課 看護師

当施設では介護職員48名（うち介護福祉士32名）中、12名の外国人労働者が在籍している。利用者が安心して生活し、外国人労働者が安全に業務を遂行するために多職種連携の取り組みを行った。

医療依存度の高い利用者が増加し介護老人保健施設の役割は大きくなる一方で、当施設は実績が少なく、多くのスタッフが医療的ケアに不安を持っていることがわかった。このことから、外国人労働者を含む全てのスタッフが安心・安全なケアを実施し、利用者も安心して過ごすことが出来る様、情報共有を工夫した。一連の取組について利用者・スタッフにケア介入前後にアンケートを実施したため、その結果も踏まえて報告する。

【演題 3】 カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

当施設における口腔ケアの取り組みについて

○ **村口 あゆみ**¹、**足利 真望**² 1.特別養護老人ホーム こもれびの里 施設部 歯科衛生士 2. 特別養護老人ホーム こもれびの里 施設部 介護福祉士

高齢者施設に入所されている利用者様は、ご自身による十分な口腔ケアが行なうことが困難であり、口腔内が不衛生になってしまう。その為、口腔の機能が落ち、いずれ全身機能の低下へと繋がってしまう。そこで、施設で働く介護士へ口腔衛生状態改善、機能低下予防を目標に日常の口腔ケア指導を行っている。当施設での歯科衛生士の役割や歯科衛生士が入職する前と後の口腔ケアの変化・経過、多職種連携にて口腔衛生状態改善されたケースについて報告する。

【演題 4】 カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

透析中の運動療法の取り組みについて～始めてみよう！透析患者さんの運動療法～

○ 鈴木 謙吾¹、庄司 寛¹、後藤 可奈恵²、西内 今日子³ 1. 北見赤十字病院 医療技術部 リハビリテーション科・北海道立北見病院 リハビリテーション課、2. 北見赤十字病院 看護部、3. 北海道立北見病院 看護部

従来、透析患者は運動制限により安静を強いられていたが、近年は運動療法が重要であると言われている。運動をしない透析患者は生命予後が悪く、透析患者の運動の効果として心血管疾患の予防、QOL の改善、透析効率が改善されると言われている。そのような中、2022 年の診療報酬改訂において、透析時運動指導等加算が新設された。北海道立北見病院にて 2022 年 10 月から、北見赤十字病院にて 2023 年 1 月から運用を開始し、両院共に多職種が協働して透析中の運動療法を行った。本報告では、多職種による透析中の運動療法の介入結果と今後の課題について報告する。

【演題 5】 カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

その人らしく最期を迎えるために

○ 村越江美¹ 佐藤亜美¹ 1. オホーツク勤医協北見病院 外来 看護師

病状の進行に伴い積極的治療を望まず残りの人生を安楽に在宅で過ごしたいと希望される患者様と関わらせていただいた事例。その方の当院初診から永眠されるまでの関わりの中で、外来での ACP の介入、在宅療養にむけての介護サービス調整、経済的問題の解決、家族からのサポート体制、いくつかの解決しなければならない問題があり患者さんと関わる職能人全ての協力が必須な状況。今回の事例を振り返り、改めて、その人の望む最期を迎えるためには多職種の連携が必要と強く感じたためここに報告する。

【演題 6】 カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

認知症利用者に対するケアマネジメントと多職種連携の課題

○ 林 大輔 介護支援センターエーる 管理者 介護支援専門員

認知症利用者が医療機関を受診する際、医師やその専門職から「在宅は難しい」「施設入所が妥当」などの意見を経験することが多くある。しかし実生活では問題なく過ごしている事例をケアマネジャーは経験している。この医療機関や専門職との認識の差異を埋めていくことが必要と思われる。

今回、医療機関で測定した HDS-R が 8 点、主治医意見書による認知症自立度は「Ⅲb」であった独居認知症の方の事例を紹介することを通じ、本人の自宅で暮らしたい意向を尊重し、生活を継続するために何が必要かを本人や家族、関わる専門職で情報を共有しサポートすることの重要性を考えたい。

【演題 7】 カテゴリー「入退院支援」

身寄りのない経済的困窮者の生活再建に向けた支援

○ 佐藤 梓¹、小坂 亜樹²、越崎 琴美²

1. オホーツク勤医協北見病院 地域連携相談室 医療ソーシャルワーカー、2. オホーツク勤医協北見病院 地域連携相談室 看護師

既往歴アルコール依存症・アルコール性急性膵炎。傷病手当金で生計を立てていたが、支給終了。無料低額診療開始の面談にて経済的に食べるのがやっとの生活状況と確認。受診日に来院なし。自宅に職員が安否確認で訪問したところ栄養失調状態で入院。生活保護申請促すも、車を所持したい思いから拒否あり。失業保険も約月5万で困窮。複数回面談し申請に同意あり、保護開始となる。身寄りなく、仕事をしない状況が続き社会の中の孤立が進行、孤独死もあり得た。食事やライフラインの支払いを後回しにしまうことから、金銭管理支援も検討したが本人拒否。その他制度活用難しく、民間サービスを活用し、生活の再建を目指している。

【演題 8】 カテゴリー「看取り・日常の療養支援」

地域で繋ぐ ACP ～その人の今の気持ち～

○ 寺山 葉子¹ 平川 香奈江² 1.北見赤十字病院 外来看護管理室 看護師 2. 美幌地域訪問看護ステーション 看護師

その人らしい人生を支えるには、ACP による医療の提供が必要である。今回、「透析をするくらいなら死んだほうがまだ」と話す糖尿病性腎症の 40 代 A さんとの関わりで、死生観や治療選択の変化を経験した。A さんは「死」を覚悟し在宅で過ごすことを強く希望された。しかし、呼吸が苦しく、むくみで思うように身体も動かせず、先の見えない苦しみに「透析したら楽になるのかな」と気持ちの揺らぎを漏らした。訪問看護師は「良くなりたいのなら」と入院治療をすすめ、A さんはその後透析を導入し、今も元気に暮らしている。地域全体で行う ACP とはどうあるべきか、今を捉え直し、思いを繋いでいく方法についてみなさんと検討したい。